

げんき日和 I

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp



「メディカルケア二日市温泉」1階併設のデイサービスで、リハビリ体操をする入所者たち

住宅型有料老人ホームといえ、自立の人や要介護度が軽い人が主に入居する施設との印象を持っていたが、認識不足だったことをこのほど思い知らされた。

福岡県筑紫野市の「メディカルケア二日市温泉」は重い人を専ら受け入れているのだ。入居条件は「要介護3以上」。経営する医療法人「芙蓉会」の前田俊輔代表(46)は「介護・医療難民を出さないよう、他の病院や老人ホームが敬遠しそうな人を受け入れることに努めている」と話す。3年前にオープン。5階建て。2～5階に個室が計60室ある。個室の広さは約13平方メートルでテレビや洗面台、パソコン、レター機、入所者本人用の電動ベッド、さらにはソファベッドも備え、家族も泊まれる。

現在、入所者は50人。要介護度の平均は3・8。パーキンソン病、がん、糖尿病など、それぞれが病気を抱える。胃ろうや

聴診記

重度者専門の有料老人ホーム

在宅酸素療法、たん吸引、導尿カテーテルなど、医療のケアも欠かせない人ばかりだ。

入所者負担は居住費、食費、おむつ代、介護費など合わせて月17万円前後(医療費は別)。一時金は不要。その程度の費用で重度の人たちを支えられるのか。

↑ ↑

先日、見学させてもらった。午前7時前の3階。介護スタッフが入所者の女性(88)の個室のドアをノックして「おはようございます」とあいさつして中へ。「腰痛い？」などと声を掛け続けながらベッドの女性を起こし、車いすに座らせた。女性は脳梗塞の後遺症で左半身がまひ。要介護4で動作の多くに介助が必要だ。寝間着からの着替えや、個室の外にあるトイレに



「メディカルケア二日市温泉」の個室。ホテルの一室のようだ

有料老人ホーム

介護保険適用の有無などに応じて「住宅型」「介護付」「健康型」の3タイプがある。全国有料老人ホーム協会が2013年に実施した調査によると、「住宅型」5100施設、「介護付」3308施設、「健康型」16施設(いずれも自治体へ届け出分)がある。「住宅型」の場合、入所者は介護保険サービスの訪問介護などが利用可。「介護付」は介護保険サービスの特定施設入居者生活介護の提供業者でもあり、入所者は基本的にホーム職員から介護してもらう。介護保険法に基づく「総量規制」があるため、「住宅型」のように容易に開設することができないのも特徴。「健康型」は要介護になれば退去となるため数が少ない。有料老人ホームと同様の施設としては、サービス付き高齢者向け住宅もある。

ワードBOX

車いすで向かうのも、介護スタッフを手助けしていた。7時半から共用スペースのテールフルで朝食。個室での食事を希望する1人を除き、13人がそろった。自力で個室から来ることもができるのは1人だけ。残る12人は車いすか歩行器を利用している。介護スタッフが付き添い、朝食の席に手際よく次々と連れてきていた。

寝かせぎりにせず、できる限り「普通の暮らし」をしてもらおうとの姿勢が感じられた。訪問介護業者などの選択は入所者の自由で「囲い込み」をしていないわけではないが、大半は芙蓉会のサービスを利用している。前田代表は「入所者は受け入れ当初、だいたい寝たきりだが、大半を離床に導いており、要介護度が改善した人もいる。お年寄りに尊厳のある生活を送ってもらうよう、さらに励みたい」と話す。5月には筑紫南ヶ丘病院(同県大野城市)と渡り廊下でつながる「介護付有料老人ホーム」も開設する計画だ。こちらも「要介護3以上」を対象とするという。(西山忠宏)

実は、入所者からそれほど費用を徴収しなくても対応できるのは、介護保険と医療保険をしっかり活用しているからだ。同じ「芙蓉会」が実施する訪問診療、訪問看護、訪問介護、

↑ ↑